

|   |  |
|---|--|
| <p>種名</p>   | <p style="text-align: center;"><u>ミヤマアカネ</u><br/><u>Sympetrum pedemontanum elatum</u></p>    |
| <p>分類</p>   | <p>昆虫綱トンボ目トンボ科</p>   |
| <p>俗称</p>   | <p>和名は深山(みやま)にすむ茜色のトンボという意味であるが、実際は深山というより里山の麓に多い。</p>   |
| <p>形態的な特徴</p>   | <p>体長 34mm(腹長 23~28mm、後翅長 26~31mm)ほどで、雌雄ほぼ同じ大きさ。翅の縁紋から内側にかけて幅広い褐色の帯があるのが特徴で、他種と容易に区別することができる。体色は未成熟個体では橙色だが、成熟するにつれてとくに雄の腹部が朱色を帯びる。幼虫は淡褐色地に複雑な濃色斑がある、体長 14~16mm(頭幅 4.5mm)ほどのヤゴである。</p>   |
| <p>分布</p>   | <p>北海道から本州、四国、九州に分布する。離島では南千島の国後島、奥尻島、佐渡島などに分布する。</p>  |
| <p>繁殖行動</p>   | <p>成虫は6月から11月頃に見られる。幼虫はおもに夜間、挺水植物の茎や葉の裏などに定位して羽化する。羽化後の未成熟個体は羽化水域付近から、ときには羽化水域からかなり離れた場所の林縁や高い山の頂上付近まで飛んでいく。成熟した雄は水域近くに集まり、縄張りを張る。交尾は近くの草などに止まっておこない、交尾後、雌雄が連結したままフサモ、クロモなどの生えた流れの緩い水辺を訪れ、数 cm から 10cm ほどの高さを飛ながら連続打水産卵または打泥産卵をする。</p> |
| <p>生息場所</p>   | <p>おもに丘陵地から低山地の水田や湿原、緩やかな流れに生息する。他のアカトンボ類が止水性であるのに対し、本種は流れにも対応した種である。幼虫は淀みに沈積した植物片の陰や、柔らかい泥上にうずくまって生活している。平地には少ないが、丘陵地の谷地田のように周辺に林が残っている水田などでは比較的ふつうに見られる。しかし、地域的にはほとんど見られないという偏在分布をする。</p>  |
| <p>生息環境への配慮事項</p>   | <p>未成熟個体は水域から遠くへは離れず、また、林内に入ることもなく林縁や丈の高い草地で過ごす。したがって、発生水域とこのような環境の組み合わせが必要となる。</p>  |
| <p style="text-align: center;">引用文献：<a href="http://www.maff.go.jp/nouson/mizu_midori/menu/main.html">http://www.maff.go.jp/nouson/mizu_midori/menu/main.html</a></p> |  |